

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

いわき市長 内田 広之

|                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 市町村名<br>(市町村コード)  | いわき市<br>(204)      |
| 地域名<br>(地域内農業集落名) | 狐塚地区<br>( 狐塚 )     |
| 協議の結果を取りまとめた年月日   | 令和7年1月27日<br>(第1回) |

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

## 1 地域における農業の将来の在り方

## (1) 地域農業の現状及び課題

## 【現状】

- ・資源保全会を中心に水路や農道の維持管理を行っており、地域全体で営農環境を整備している。
- ・他の地域に比べ、地域内に担い手が多く、担い手に対する集積も進んでいる。

## 【課題】

- ・水量が不足しており、その影響で田植えの時期が遅くなっている。
- ・農地が集積集約化できていない場所は、集積集約化できている場所に比べて作業効率が悪い状況である。
- ・基盤整備事業の要件である高収益作の導入について、検討を続けているが、具体的な作物が決まらない状況である。

## (2) 地域における農業の将来の在り方

- ・基盤整備事業に取り組むことで、農地を担い手に集積集約化でき、農作業の効率化や生産性の向上を図っていく。

## 2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

## (1) 地域の概要

|                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| 区域内の農用地等面積                       | 53 ha |
| うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積      | 54 ha |
| (うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】 | — ha  |

## (2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

- ・農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地との間にある農地は保全・管理を行う区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

### 3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

|                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)農用地の集積、集約化の方針                                                                                                                             |
| ・担い手に対する集積、集約化を基本とするが、集積、集約化が難しい農地については地権者が耕作する。                                                                                             |
| (2)農地中間管理機構の活用方針                                                                                                                             |
| ・中間管理事業役員を中心に農地中間管理機構を活用した農地集積を行っており、目標である集積率80%の達成を目指している。                                                                                  |
| (3)基盤整備事業への取組方針                                                                                                                              |
| ・中間管理事業役員や担い手を中心に、基盤整備事業の実施に向け関係機関と協議を重ねている。今後は、申請要件を満たしているか確認し、早期の申請を目指す。                                                                   |
| (4)多様な経営体の確保・育成の取組方針                                                                                                                         |
| ・農業の面白さを伝えるため、担い手が小学校で田植え体験の指導を行っている。新たな担い手が生まれるきっかけ作りとして、今後も活動を継続していく。<br>・地域に女性農業者がおり、農業機械を自ら操作するなど、精力的に活動している。今後、地域における女性農業者の確保・育成に取組んでいく |
| (5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針                                                                                                          |
|                                                                                                                                              |

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

|                                               |                                             |                                  |                                |                                          |
|-----------------------------------------------|---------------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策 | <input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料        | <input type="checkbox"/> ③スマート農業 | <input type="checkbox"/> ④輸出   | <input type="checkbox"/> ⑤果樹等            |
| <input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等            | <input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等 | <input type="checkbox"/> ⑧農業用施設  | <input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携 | <input checked="" type="checkbox"/> ⑩その他 |

【選択した上記の取組方針】

- ①鳥獣被害対策として電気柵等の設置や農道の草刈りを継続していく。  
 ⑦資源保全会を中心に水路の維持管理や、水路や農道の草刈りなど継続していく。  
 ⑩担い手による小学生を対象とした、田植え体験の指